

会議結果報告書

令和6年4月23日

会議の名称	令和5年度 第3回舞鶴市市史編さん委員会	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和6年 3月27日(水) 15:00~16:00	
開催場所	西総合会館2階201会議室	
出席者	委員6名 別紙のとおり	
議題	1 新修・舞鶴市史編さん実施計画について 2 市史編さんに向けた具体的な取り組みについて	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	なし	
審議結果及び主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		
担当課	舞鶴市 政策推進部 企画政策課 TEL (0773) 68-9556	

舞鶴市市史編さん委員会 第3回会議（書面）議事要録

- 日 時：令和6年3月27日（水）
- 場 所：西総合会館2階
- 出席者：東委員長、加藤副委員長、上杉委員、児玉委員、廣瀬委員、吉野委員
- 舞鶴市：政策推進部企画政策課市史編さん係 田中係長、石原、吉岡

次 第

1 協議事項

- (1) 新修・舞鶴市史編さん実施計画案について
- (2) 計画をふまえ、市史編さんに向けた具体的な取組について
 - ① 悉皆調査の進め方
 - ② 資料編で扱う時代区分
 - ③ 文化遺産編の調査計画
 - ④ その他

【協議概要】

(1) 新修・舞鶴市史編さん実施計画案について

① 意見等

ア 分野編②「旧軍港」の文章中、「東地区」は「東・中地区」とすべきではないか。

イ 資料編①「考古・古代・中世」の「考古」を「原始」に、資料編③「近代」は「近代・現代」または「近現代」が妥当ではないか。

【事務局】

・それぞれ所管する専門部会で検討、整理する。

ウ 「6 組織・市史編さん委員会」の「(2)市史編さん専門部会」で「若干名で構成する」とあるが、部会によっては多くなることがあると思われるので留意が必要である。

【事務局】

・専門部会のうち、文化遺産部会については対象が多岐にわたることから委員数は数名でなく10名程度を想定している。

エ 「7 市民協働と編さんの周知」の「(2)編さん情報の共有」の「②地域史講話等の開催」の「講話」は、「講座や報告会」などに変更したほうが分かりやす

い。

【事務局】

- ・より多くの市民に市史に関する話を聞いていただくため、学びに行くというように感じられる「講座」とせずに、敷居を低くして気軽に参加していただくという意図で「講話等」としたものである。

② 計画案について全委員承認

(2) 市史編さんに向けた具体的な取組について

① 資料編の構成について

(悉皆調査を前提とし、写真・図表・解説のセットを基本にすることについて)

ア 資料の特性によっては、必ずしも基本構成とならない場合もある。

イ 基本的には見開き2頁・4頁だが、内容によっては、10頁以上の特論的なものをいれる柔軟性が必要である。

ウ 悉皆調査した資料は、台帳化するなどして何らかの形で公開できることが望ましい。

エ 場合によっては地図・図面・写真などが複数となる項目があってもよい。

オ 取り上げる史資料や内容によっては、取り上げ方や分量(頁数)は柔軟に対応していくことでよい。

カ 基本的には悉皆調査を前提としたい。写真・図表・解説のセットを基本とするが、分野によって必要項目の選択など柔軟に対応する。

② 資料編の時代区分について

(既刊市史に合わせるのか、例えば細川氏関係資料の扱いについて)

ア 地域に即した時代区分の設定は有意義だが、利用者にとっては一般的な区分の方が探しやすいのではないか。

イ 既刊市史と高校日本史教科書を比較する(下表)とやや異なるが、通史編概要版と一致させることが大前提である。

時代区分	既刊市史	高校日本史教科書
中世	鎌倉時代以降	平安時代後期の院政期以降
近世	織豊政権以降	織豊政権以降
近代	明治維新以降	ペリー来航以降
現代	終戦後	明示していない

ウ 通史編「平成の舞鶴」で取り上げる資料もあるならば、資料編の「近代」を

- 「近代・現代」と変更することもあり得るのではないか。
- エ 細川氏の登場は、その前提として一色氏・若狭武田氏との関係の歴史があるので、中世の終わりに細川氏の資料を入れるのがよいのではないか。
- オ 可能な限り一般的な時代区分を踏襲することが望ましいが、既刊市史の区分に合わせた方が相互参照し易い。異なる場合は、編さん委員会でその区分を採用した理由を示す。
- カ 近世の区分は織豊期から廃藩置県までが多いが、慶応4年を近代とする。既刊市史を基準とし、柔軟に対応してもよいと考える。
- キ 細川氏史料は既刊市史に合わせて扱っていただきたい。

③ 文化遺産編の調査計画について（扱う内容はどの分野とするか、分冊数をどの程度見込むか、どの分野から進めるかについて）

- ア 分野、分冊については、地域の遺産に詳しい地元の委員・事務局の意見に従って進めていくのがよい。人材がいるかどうかも大事である。
- イ 情報共有し、議論が必要と考える項目は以下のとおり。
- ・自然、地質については、何が想定されるか挙げていくときりがないが市史として何が必要か。
 - ・美術工芸、民俗、建築等、悉皆調査について、どの程度進んでいるのか。
 - ・民俗はどの範囲（伝統行事／現在的な民俗／食文化等）を取り上げるか。
 - ・悉皆調査はどの分野も速やかに進めていく必要がある。
 - ・分冊の計画が決まらないと動けない。
- ウ 絵地図はぜひ入れたい。地籍図についても緊急度が高い。出来る範囲で赤色写真（立体地図）も。
- エ 寺社を含めた美術工芸、建造物、有形文化財。
- オ 無形文化財のうち祭礼は必要なものは記録化してはどうか。
- カ 民俗（説話・伝承・伝統的な生活・古謡など）については、現在新たに採録できるものは少ないと思われる。
- キ 戦争体験を文章化して残しておくことは大切だと思う。（資料編の近代に入れるべきものか）。
- ク 戦国期の山城図面（『舞鶴の山城』に掲載）について、学校での地域学習に有効であり、市史に入れるか検討が必要。（京都府立大の「まるまる舞鶴」で公開中）
- ケ 今までの発掘調査結果と市内遺跡地図を併録したもの。

- コ 計画案に示されている自然・地質編、美術工芸編(絵画・彫刻・工芸品・典籍・古文書・歴史資料)、建造物編、民俗編、地図・絵地図編の5つに分ける。
- サ 分冊は、どれを組み合わせても違和感はない。
- シ 資料の蓄積のあるもの、調査が進捗しているものから進めていく。例えば、地図から始めたらどうか。
- ス 「編さん実施計画」中にある「自然、地質、建造物、美術工芸、民俗」の記述では、「自然、地質」でどの程度の内容(厚さ)が想定されているのか、「民俗」で何を取り上げるのかといったあたりがまだイメージできない。
- セ 悉皆調査にはかなりの労力や時間が必要になるものと思われ、具体的に作業の見通しが立っているものから順に手をつけていくのが現実的ではないかと思う。(場合によっては、明確な期限がある新修・市史への掲載よりも、悉皆調査や保存に重点を置いて、結果として間に合う部分を市史に載せる[利活用については別のあり方も考える]方が、意義としては大きいかもしれない)
- ソ 提案の自然・地質、建築、美術工芸、民俗、絵地図を基本とする。
- タ 民俗に入る可能性もあるが、舞鶴の言語・方言などに井上奥本氏の研究内容も含めてよい。

④ その他の意見

- ア 概要版・デジタル版などでは、文化財保存活用地域計画(及びその前の歴史文化基本構想)で提示した歴史文化・関連文化財群を活かした構成での見せ方も検討したい。そういう見せ方をすることを念頭に置いているかいらないかで調査の仕方が変わるかもしれない。
- イ 美術工芸品(特に古文書、絵画、彫刻)の調査についてはこの機会に悉皆的にやるべきだ。これらは京都府や府立大学などの調査と連携して進めていくのがよい。視点として、過去の北部自治体史では福井県側との繋がりが薄いので、若狭湾全体を見渡すような記載もあればよい。
- ウ 市役所・公民館・旧村役場文書など行政文書・写真を目録化し、歴史資料は文書管理・アーカイブスの機能を持つ部署へ移管・保管・公開し、後世に継承する方法を市史編さんの期間中に確立する。
- エ 市史編さんに関する情報を、できる限り WEB や SNS で発信し、既刊市史の「編さんだより」のように日誌などで、編さん・調査の過程もまとめて公開する。

【事務局】

今年度、調査等具体的な取組に入っていくうえで、整理しておく事項等について、各委員のお考えを聴かせていただいた。これらご意見等を取りまとめ、次回会議（4月28日）の協議案件とし、個別詳細内容について固めていきたい。

以 上